

名古屋 文化 情報

2013

1

Jan.

No.346

NAGOYA
Cultural
Information



Contents

一月のうた 2
 随想 谷辺 昌央 クラシック・ギタリスト 3
 視点 広小路通の歴史を物語る近代建築の魅力
 まとめ/田中由紀子 4
 この人と...ズーム・アップ
 平塚 直隆さん 聞き手/はせひろいち 6
 ピックアップ 8
 おしらせ 9



表紙

作品

「流・転・生」

(2009年/200×1680cm/岩絵具・箔・膠・麻紙・パネル)

自身の原風景、原体験を基にした作品です。緋色の大地で地平を境界として二分された「天」と「地」が抑えようのないうねりをもって時間と空間を伴い噴き出してくる世界を表現しました。

平塚市美術館蔵 日経日本画大賞受賞 会場コバヤシ画廊

濱田 樹里 (はまだ じゅり)

1973年 インドネシア生まれ

1999年 愛知県立芸術大学大学院美術研究科修了

2010年 名古屋市芸術奨励賞新人賞

2012年 第5回東山魁夷記念日経日本画大賞展大賞

2012年 名古屋市文化振興事業団第28回芸術創造賞

現在 名古屋造形大学日本画コース専任講師

衣

一月のうた

佐々木 莉子

平らかな広がりから裁たれ
 千度 針に貫かれ
 火熨斗を受けた
 ふくらみを受け容れ
 寄り添うことで
 己を完うする
 そのやわらかな思想
 体温に触れるとき
 野に 森に
 あるいは山にあった日の
 遥かな由来を
 静かに語りだす
 熱のある夜の背に添い
 悲しみの胸を包み
 或るとき
 喜びの記憶をとどめる
 脱ぎ落とされれば
 おとなしく 平らかになり
 畳まれた折り目を
 かすかに傷めつつ
 いつまでも 静かに
 闇に坐している
 想っているのか
 遠い世の伝説のままに
 ひるがえり 包んだひとの
 いつか みな 天に還りゆくことを

慌しい日々の中で心弱るような時、身の周りに在る寡黙な「物」に慰められることがある。父の遺した青磁の壺、母の見立ててくれた着物、ノモンハンで拾った小石、二千年を経たトンボ玉など、歳経りたものほど深い美や多くの物語に満ちている。

事物は、人の記憶の領域に取り込まれたとき、あふ不滅の光を帯びて、癒しの力さえ持ち始めるように思われる。

(所属 日本詩人クラブ・中日詩人会)

随想

響きの文化



たに べ まさ お
谷辺 昌央 (クラシック・ギタリスト)

ドイツのケルン大聖堂でブルックナーの交響曲第8番の演奏を聴いた。それは天から降ってきた響きが空間をみたしているようで、大聖堂の空間そのものが巨大な楽器であり演奏者も聴衆もその中にいるということを実感させてくれた。

ヨーロッパには意外にも300-500席の室内楽向きコンサートホールが少なく、その規模のコンサートの多くは古城の広間や教会で行われるが、その音響は時代や地域によってかなり異なる。あるドイツの建築家から聞いた話では、中世のドイツの教会建築において理想的な残響の長さは8秒とされていたという。このような残響の中で歌われる会衆による讃美歌はオルガンに1秒ほど遅れておも〜く引きずるような感じになる。かつてヨーロッパの作曲家の多くは子ども時代に教会の聖歌隊で歌うことを経験していたが、そのような少年時代の音楽体験は彼らの音楽形成に大きな影響を与えたかもしれない。それは《響きの文化》と言っても良いだろう。

一方、日本においてはどうかだろうか。豊かな四季折々の自然に恵まれていて、それらから生み出される様々な音によって繊細な感性は養われるが、建築物（空間）の響きとなると、畳、障子などを使った日本の家屋では、響きはその空間に存

在していることに気付かずにすごしてしまいがちではないだろうか。

ヨーロッパでは歴史的建造物をコンサート会場として使うことがとても好まれるが、そのような歴史的に偶然備わった音響のクォリティーは様々で、席による聴こえ方の違いも大きく、理想的でない場合も多い。しかし古城の広間などの歴史的な雰囲気の中で演奏することがそれを補って余りある場合がある。その建築物が持っている音響や雰囲気までもが歴史的な文化財の一部であり、その響きの中で音楽を演奏し聴くことがその土地の《響きの文化》なのである。

日本のコンサートホールは音響上の問題が音響設計によって一定水準以上にクリアーされているものが多い。日本の音響設計の技術は世界でも最先端を行き、ヨーロッパから来日した音楽家が驚くような、素晴らしい音響を持ったホールも各地に造られている。ウィーン・フィルのニューイヤーコンサートなどで有名なウィーンの楽友協会のホールが歴史的に偶然獲得した音響はコンサートホールの理想と言われるが、日本のコンサートホールの音響設計は、そうした《響きの文化》をモデルとして模倣・再現しようというところから発展してきたのかもしれない。

広小路通の歴史を物語る 近代建築の魅力

名古屋のメインストリート、広小路通には、かつて大正から昭和初期に建てられたオフィスビルが数多く立ち並んでいた。近年、老朽化や保存・管理の問題からこれらが相次いで取り壊され、広小路通に残る近代建築はいまや4棟となった。これらの近代建築からは、名古屋の歴史や産業が肌で感じられ、まちの魅力をあらためて発見することができる。

(まとめ:田中由紀子)

堀川に面して立つ在りし日の領事館



旧加藤商会ビル外観

納屋橋のたもとに瀟洒にたたずむ旧加藤商会ビルは、国の登録有形文化財に指定されている。ここは、おもに外米の輸入を行っていた加藤商会の本社として1916（大正5）年に建設された社屋が、15年後に建て替えられたもの。その時にレンガ造りから鉄筋コンクリート造りとなったものの、外観のデザインは建設当初とほとんど変わっていないという。

外壁のレンガ調タイルやレリーフ、テラコッタの柱頭飾りなどに、大正から昭和初期の近代建築の特徴を残している。加藤商会の創業者の加藤勝太郎が1935（昭和10）年にシャム国（現在のタイ）の名誉領事に任命されたことから、1945（昭和20）年まで領事館として使われていたことでも知られている。

現在は、公益財団法人名古屋まちづくり公社が1～3階を名古屋市から借り受けて維持・管理を行っており、タイ料理レストランが営業している。地下は、名古屋市が運営する「堀川ギャラリー」として公開され、堀川の歴史や情報を発信している。

かつて堀川は、名古屋の幹線輸送路として重要な役割を果たしてきた。近年、再開発が進み、川沿いにはおしゃれな飲食店が多く立ち並ぶなか、旧加藤商会ビルは名古屋を支えた近代産業の遺構として、レトロな風情をいまにとどめている。

古代ギリシア建築の趣をたたえる現役銀行

高層ビルが立ち並ぶ地下鉄伏見駅周辺。そのなかで低層ながら威風堂々とした存在感を放っているのが、三井住友銀行名古屋支店（旧三井銀行名古屋支店）である。

1935（昭和10）

年に三井銀行名古屋支店として竣工されたこの建物は、いまでも銀行として使われており、現在59件が指定されている名古屋市都市景観重要建築物の一つとなっている。

この建物に威厳と優美さを与えているのが、古代ギリシアの建築様式のひとつであるイオニア式の円柱だ。溝が掘られた柱身と、左右に大きく張り出した渦巻き状の飾りがついた柱頭を持つ柱が、入口をはさんで6本配されている。花崗岩で仕上げられた外壁や格子の入った大きな窓、その上部に施されたギリシア雷文などの繊細な造りも、ぜひ見ていただきたい。



三井住友銀行名古屋支店外観



玄関をはさんで配されたイオニア式の柱

金融街の面影を残す旧銀行ビル



旧名古屋銀行本店ビル外観

広小路長者町交差点の北東角に立つ旧名古屋銀行本店ビルも、三井住友銀行名古屋支店と同様に名古屋市都市景観重要建築物に指定されている。名古屋で2番

目の私立銀行として1882（明治15）年に設立された名古屋銀行（東海銀行の前身）の本店として、1926（昭和元）年に竣工された。その後、1941（昭和16）年に愛知銀行、伊藤銀行と合併して東海銀行が誕生したことから、東海銀行本店となった。1961（昭和36）年からは中央信託銀行名古屋支店、2000（平成12）年から9年間は三菱東京UFJ銀行貨幣資料館として使用された。

設計は、鶴舞公園噴水塔・奏楽堂や楊輝荘など名古屋に近代建築を普及させた建築家、鈴木禎次（1870-1941）によるもので、正面玄関の左右に3本ずつ配された円柱が地上5階の建物の4階部分までのびているのが特徴。この円柱は、古代ギリシア建築のコリント式と呼ばれる様式で、イオニア式と同様に溝が掘られているがやや細めの柱身と、ギリシアの国花であるアカンサスの葉がかたどられた柱頭が特徴。現在は空きビルとなっているが、当時と変わらない重厚な姿には目を奪われる。



4階までのびるコリント式の柱

かつて銀行や保険会社が立ち並ぶ金融街だった広小路通。旧住友銀行名古屋支店（1925年竣工、1998年解体）、旧名古屋日本徴兵館（後に大和生命ビル、東海銀行本店別館、UFJ銀行名古屋ビル別館と改称、1939年竣工、2004年解体）などが姿を消したいま、三井住友銀行名古屋支店



駐車場となった跡地に置かれたと旧名古屋銀行本店ビルは、旧大和生命ビル外壁の一部当時の広小路通の面影をとどめる財産といえるだろう。

あのおしゃれな食材店は、なんと築75年



明治屋栄ビル外観

丸栄の西隣に位置し、買い物や食事に立ち寄ることも多い明治屋栄ビルが、近代建築のひとつであることは意外に知られていないのではないだろうか。

鉄筋コンクリート造地上6階・地下2階建てのこのビルは、明治屋が栄に店舗をオープンした1938（昭和13年）年に建てられた。1階は明治屋名

古屋栄ストアー、2階と地下は飲食店、3階以上は事務所やオフィスとして利用されているが、当初から低層部が店舗、3階以上が事業所として使われていたという。広小路通に面した外壁に配された、2～5階に伸びる6本の柱が特徴だ。

築75年の古さを感じさせないビルだが、ソフトウェア開発のダイテックの関連会社がこの建物と土地を取得し、2014年には建て替えが予定されている。古い外観を残しながら建て替える工法を検討しているというものの、広小路通から近代建築がまたひとつ消えることになるのが惜しまれる。

来夏の名古屋は、建築が熱くなる

2010年に好評を博したあいちトリエンナーレが、2013年8月10日に開幕される。テーマは、「揺れる大地—われわれはどこに立っているのか：場所、記憶、そして復活」。現代美術展に建築の要素が取り入れられた作品が並ぶほか、建築マップの作成やオープンアーキテクチャー（建物公開）をとおして、建築からまちの魅力を発見するプロジェクトが展開される。トリエンナーレに先駆けて、納屋橋から丸栄まで約1km間にある、素通りしてしまいがちな4棟の近代建築にあらためて目を向けてみてはいかがだろう。

■建築データ

旧加藤商会ビル
所在地：名古屋市中区錦1-15-17
竣工：1931年
構造：鉄筋コンクリート造り地上3階・地下1階建て

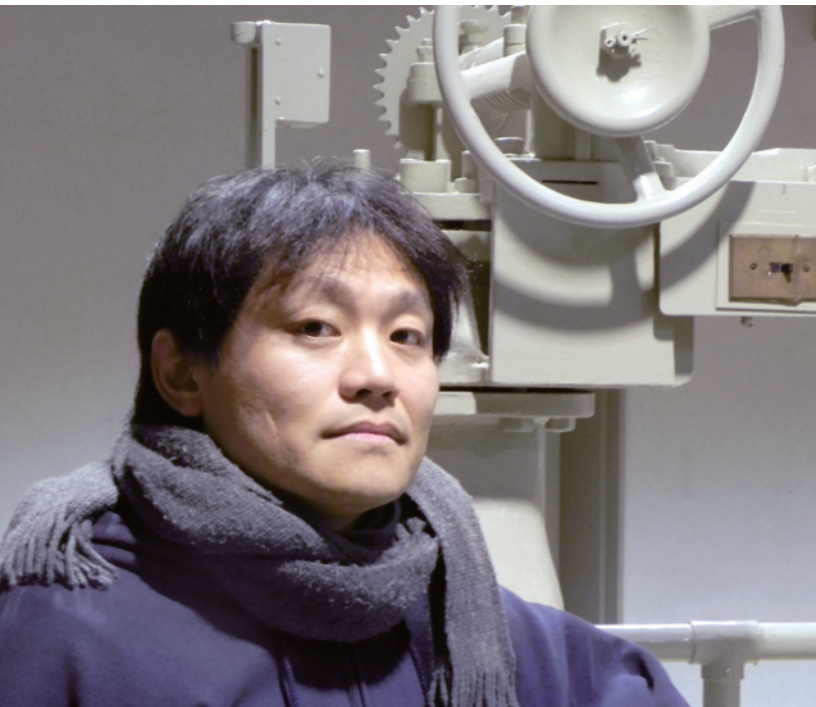
三井住友銀行名古屋支店（旧三井銀行名古屋支店）
所在地：名古屋市中区錦2-18-24
設計：曾禰中條建築事務所
竣工：1935年
構造：鉄筋コンクリート造り地上2階・地下1階建て

旧名古屋銀行本店ビル
所在地：名古屋市中区錦2-20-25
設計：曾禰達蔵、鈴木禎次
竣工：1926年
構造：鉄骨鉄筋コンクリート造り5階建て

明治屋栄ビル
所在地：名古屋市中区栄3-2-9
設計：成瀬薫（西尾建築事務所）
竣工：1938年
構造：鉄筋コンクリート造り地上6階・地下2階建て



二人と... ズーム・アップ



劇作家・演出家

平塚 直隆さん

独特な劇世界を生む無欲と無邪気

「平成の無責任男」「永遠のセカンドマン」…かつて彼につけられていたニックネームである。この、いささか失礼な愛称で周囲から呼ばれること自体が彼の「壁を作らない人柄」そのものを示しているのだが、彼はここ2～3年の間に、その両方を軽やかに返上し、着実に進化し続けている。劇作家協会東海支部の支部長に自らの意思で着任し、佳作どまりだった発表作品が軒並み「一等賞」を受賞した。今、名古屋演劇界で注目を集める彼の素顔に迫ってみたい。

(聞き手：はせ ひろいち)

時間をかけ成熟した「平塚節」

2009年に第4回 仙台劇のまち戯曲賞大賞、2010年に第16回日本劇作家協会新人戯曲賞にて最優秀賞を受賞した彼は、今年に入っても2月に第9



代劇王、3月に演出者協会の若手演出家コンクールで最優秀賞、10月には第12回AAF戯曲賞大賞などに輝き、先日は自らが作、演出する劇団「オイスターズ」が初の海外公演を終えたばかり。まさに今、乗りに乗っている感じだが、ここに挙げたのと同じ分量の「佳作受賞」の経歴が2009年まで続き、セカンドマンとしての連続記録も他に類を見ない。「よく辛かったか? と聞かれますが、全然そんな感覚はなく、むしろ毎回の佳作が嬉しかったですね。もちろん大賞はそれはそれは嬉しかったですけど、賞をもらったからというよりも、これだけ面白いと思われているんだから、少しは自分の作風を自覚しなきゃな、って感じでした」と驕りの様子はみじんもない。

彼の戯曲世界は、独特な会話のやりとりが特徴で、それを武器に、時にナンセンス、時に不条理、時に日常の危う

さを自由に描いていく。そのユニークなテンポと間は、俗に「平塚節」と呼ばれ、審査員や劇評はもちろん観客からも幅広い支持を獲得している。受賞のお墨付きも含め、はた目からは自分の作劇スタイルに、自信と自由を獲得したと思われるのだが、「それは受賞とは無縁です。毎回毎回が本当に苦しく、もうダメかもと思いながら書いている」とは本人の弁。「失敗できない、とか守りに入ると全然筆が進まないし、逆に、自分的に新しいトーンで書けたかと思うと、お客さんから『今までと違う』とか『笑えると思って友達連れてきたのに』とか言われて…」それでも評論家や関係者の高い評価に支えられ、ある意味「笑いたいたけの客」から卒業し、幅広い客層を獲得していった。

自分に生じる直感に素直に動く

3年前の春、劇作家協会東海支部の集まりでは、そこに集った劇作家の誰もが驚き、平塚氏の男気を見直した。二代目支部長の佃典彦氏の後釜を決める会議の中、誰もが「これは長い夜になるな」と予感していた時だった。「じゃあ僕がやります」とあっさり手を挙げた平塚氏。その夜を境に、誰も彼を無責任男とは呼ばなくなった。「あれは、まあ、流れと言うか…責任とか覚悟とかがってドラマチックなものより先に『こういうのは立候補で決めるべきだろう』みたいな感覚があって…」と決して自分の功績を語ろうとしない。自分の鋭さをアピールすることなく語られる、彼の、

ある種アーティストらしくない、フラットかつ飾り気のない発言は、彼の魅力を語る上で、欠かせないアイテムなのかも知れない。

中学の卒業文集に「将来の夢はディレクター」と書いていた平塚青年は、大学時代に映画研究会で自主映画を9本ほど手がけ、そこに出てくれる舞台俳優という存在に興味をわき、芝居を観るようになった。もちろんシナリオも自分で書いており、その時点から会話劇への下地はできていた。「当時から道を絞るというよりは、基本フラフラしてて、関心の向くものに出会うと直感的に進んでいったんですね」。

「なりゆき」の海外公演で得たもの

「初めての韓国公演はさすがに刺激的でしたね。ソウルと清州の2都市でしたが、頼んであった照明機材が無くて会館の人が走って買いに行ったり、リハーサルが終わったら開場時間だったりしましたが、何よりお客さんのウケる場所が、日本と寸分違わなかった。あれは驚きでした」と振り返る平塚氏。そもそもこれも彼が「責任を持って」参加す



韓国の街並みを背に、初の海外公演を満喫する劇団の面々

る演出者協会の仕事の中で「あ、じゃあ僕行きます」と手を挙げた「なりゆき」が発端とか。「とにかく何とかこっち(韓国)まで来てくれ。後は何とかするから」と言われ、渡航費用はもちろん自腹、具体的な助成は一切ない初海外だったという。もちろん作品が好評だったのは、字幕付き上演に加え、一部翻訳のセリフを役者がプラカードで次々開いていくという、遊び心満載な演出成果があつての事。「あとアフタートーク。壇上にいる僕たちを無視して客席同士で議論が沸騰したり、最後に決まってお客さんも交えた大人数で記念写真を撮ったり。異文化を実感しました」と目を輝かす。

フラットであるがゆえの強み

「夢とか目標とかってのが、ホントにないんですよ、昔から。海外はまた行きたいけど、作品的な意欲ではないし…」と平塚氏。岡田利規、岩井秀人、前川知大ら今をときめく同世代作家の作品もどんどん観に行く。ライバル心を尋ねても「嫉妬したり燃えたりしないんです。ただただみんな上手いなあ、とか凄いなあ、って素直に感心して帰ってくる」のだという。

「あ、でも、最近一つだけ学習したことがありまして…どうやら僕は、こうすると面白くなるとか、ココで伏線を詰め込んで、みたいなのは無理が出てくる。計算して筆が止まるとどうも良くないんですね。書きたくなった材料を、ただただ自分が飽きるまで書き続けている状態が、逆にいい感じになるんです。自分も作品も」と子どものように生き生きと語る平塚氏。



アクテノンでの稽古風景。床のスリッパは演技の起点となる立ち位置のポイント

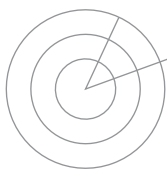
今回の取材はオイスターズの新作「田」の公演1週間前の稽古中であり「全然自信ないんです」を繰り返していた彼。インタビューを受けるのも早々に、通し稽古を観た感想を矢継ぎ早に聞いてくる。「集団のありがたさとか役者のおかげとか言うとかカッコいいんでしょうけど、それも何か違うんですね。むしろ『お前たちが変わってくれないと、俺の書く役柄がパターンになるだろ』なんて愚痴ってますから」と笑う。そんな距離感の劇団員たちとの関係性もまた、平塚氏の劇世界ではある種の必然であり「なりゆき」を継続する上での大事な方法論なのかも知れない。

言い換えれば「なりゆき」とはすなわち、いろんな出会いを無駄にしない姿勢でもあり、彼独特の「フラットであるがゆえの強み」もまた、それを後押ししているのだろう。それは決して派手だったり、万人が理解しやすい価値観ではなくとも、彼自身が長年かけてゆっくり獲得した彼なりの「自由」なのではないだろうか。何事も決めてかからない柔軟さを武器に、彼の作品世界がどんどん広がっていくのを楽しみにしたい。



新作「田」のステージより

ピックアップ



円形劇場ちくさ座の会 10年の活動と今日

名古屋市千種文化小劇場は2002年10月に開館し、2012年で10年の時を得た。千種文化小劇場は「ちくさ座」の愛称で親しまれてきた。この小劇場にて12月7日・8日に「ちくさ座10周年記念・円形劇場ちくさ座の会」の「うちの子は」と題する演劇、ダンス、音楽による公演が開催された。「うちの子は」のストーリーは家族手当年金の委嘱をうけ、インタビューや俳優たちの個人的な体験に取材して書かれたドキュメント的な内容である。作者はジョエル・ポムラ（仏）で1963年生まれ、劇作家で演出家である。演出はちくさ座の会の岩川均氏が手懸け、「劇は今どきの孤立した親子についてのたくさんのエピソード。傷つきやすく気難しい、とても人間臭い人々で、何かに追いこまれている。古き善き道徳的な価値基準などお構いなく行動してしまう。家族の幸福についての、またその理想的なモデルについての常識を脅かしている。この脅かしに演劇、ダンス、音楽がコラボしてどのように拮抗するかが面白い」と語られた。会員と協力参加40人のパワーの結集であった。

さて、この千種文化小劇場には、いくつかの特色がある。まず建設立ち上げに向けて、千種区に住む文化人、芸術家が集い会を結成、島崎隆氏（故）が中心となって10年近くに及び地道な努力と市への働きかけで建設が実現したこと。そして地元市民の意向を反映

して独特の劇場ができたことだ。八角形の舞台を3方の客席で取り囲むすり鉢状で名古屋市では唯一の独特な円形劇場である。また、外観は南面と東面の壁に蔦をまとい特殊緑化し、名古屋市都市景観賞、国土交通大臣賞を受賞している。春は新緑、夏は緑葉で覆われ涼しげに、秋は紅葉で季節観を楽しめる。会は開館記念行事を中心になって取り組むと共に開館後の運営についても地元市民と共同運営の働きかけをしたが実現は難しかった。そこでNPO（特定非営利活動）法人「円形劇場ちくさ座の会」を立ち上げ、直接管理運営を目指したこともある。現在では法人組織であることをやめ、ゆるゆるとちくさ座を応援する任意団体となっているようだ。会主催の3周年記念や5周年記念公演や会員個々のちくさ座を意識的に使った数々の公演は、千種文化小劇場の地元定着の一助となったといえるのではないか。開館前10年、開館後また10年、会はかなり高齢の方ばかりになり、この10周年記念公演をもって、会としての活動は閉じ、今後はそれぞれの人々が個別に千種文化小劇場を支えていきたいとのこと。官民が一体となれる先駆けの芽が10年前にあったことを大切に、時間はかかるが成長させていけないだろうか。「ちくさ座」という名称に親しみを感じ、あの円形劇場に魅力を感じる舞台人は多い。 (k)



公演チラシ



「うちの子は」舞台



「うちの子は」舞台

名古屋市文化振興事業団 事業案内・チケットガイドでは各種の事業案内、チケット販売をいたしております。
平日9:00~17:00 / チケット郵送可 TEL 052-249-9387 / FAX 052-249-9386

第6回 アートピア音楽祭

アートピア音楽祭は、音楽を愛する若者が集い、交歓し、楽しむ音楽の祭典です。今回で6回目となり、内容は合唱、管弦楽、吹奏楽など様々なジャンルの演奏会となっています。1部・2部それぞれ合同演奏も行う予定です。是非皆様ご来場ください。

日時 2月10日(日)13:30開演(13:00開場)

会場 青少年文化センター アートピアホール

料金 500円<全自由席>

出演予定団体 7団体(順不同)

<第1部> 名古屋市立北高等学校音楽部、モナミ児童合唱団、アンサンブルトパーズ、
プランタン管弦楽団

<第2部> ウインドファミリーなごや、名古屋市民吹奏楽団、名古屋緑吹奏楽団

賛助出演・協力 やまもとかよ(芸術文化活動アドバイザー)
中村暢宏(指揮者)

主催 (公財)名古屋市文化振興事業団(青少年文化センター)

チケット取扱 名古屋市文化振興事業団チケットガイド、出演各団体、青少年文化センター

問い合わせ 青少年文化センター TEL 052-265-2088

文化庁補助事業 平成24年度 文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 芸どころNAGOYA 伝統文化フェスティバル2013

伝統文化フェスティバル2013は、日本の伝統文化や郷土の伝統芸能に楽しみながら触れることで、豊かな心をもつきっかけになることを願い、開催するものです。

ナディアパークを会場に、だれでも気軽に楽しめる「伝統文化ふれあいステージ」、本格的な能・狂言の舞台を鑑賞する「伝統文化鑑賞会」、さまざまなジャンルの伝統文化を体験できる「伝統文化ワークショップ」を開催いたします。おとなも子どももお楽しみいただける内容ですので、お気軽にご参加ください。

伝統文化ふれあいステージ

*事前申込不要・どなた様もご覧いただけます。

日時 3月9日(土)・10日(日)

会場 ナディアパーク2階アトリウム

内容 14:00 雅楽
15:00 正調名古屋甚句
16:00 和楽器コンサート ※両日とも同様

伝統文化鑑賞会 (小学生以上対象)

*定員500人

要事前申込・下記応募方法によりお申し込みください。

日時 3月9日(土)17:30

会場 ナディアパーク3階デザインホール

内容 能/枕草子 狂言/墨塗

伝統文化ワークショップ (小学生以上対象)

*定員各10~30人

要事前申込・下記応募方法によりお申し込みください。

日時 3月9日(土)・10日(日)

会場 ナディアパーク6階~9階 セミナールーム等

内容 9日(土) ①13:00 ②15:00 ③17:00
【8講座】煎茶道・書道・華道・琴・津軽三味線
・神楽・和太鼓・囲碁

10日(日) ①13:00 ②15:00 ③17:00

【9講座】茶道・染め・香道・都々逸・日本舞踊
・尺八・衣紋道・長唄・将棋
※都々逸は13:00と17:00

応募方法 往復はがきまたは、FAXで下記のとおりご記入の上、1月31日(木)<必着>までにお申し込みください。
Webでも申し込みを受け付けています。(詳しくは名古屋市文化振興事業団ホームページをご覧ください。)

<往信>①希望する全ての鑑賞会・ワークショップ名と日付と時間

※複数申込可。時間が重ならないようにお申し込みください。

②参加者全員のお名前(4人まで)

※小学生が参加する場合は年齢もお書き添えください。保護者の付き添い、見学だけの場合は記入不要です。

③応募者の郵便番号・住所・お名前・電話番号・FAX番号

<返信>ご自分の郵便番号・住所・お名前

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。(抽選は各鑑賞会・ワークショップごとに行います。)

小学生は保護者の付き添いが必要です。材料代実費は当日お支払ください。

応募先 〒460-0008 名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパーク8階 名古屋市文化振興事業団「伝統フェス」係
FAX 052-249-9386 Web 名古屋市文化振興事業団ホームページ より

問い合わせ 名古屋市文化振興事業団 事業案内 TEL 052-249-9387

名古屋市文化振興事業団2013年企画公演 オペレッタ『こうもり』

名古屋市文化振興事業団では、毎年、地元で活躍する音楽・演劇・舞踊をはじめとする舞台人の総力を結集し、新しい可能性を追求する企画公演を開催しています。

第29回目を迎える今回は『美しく青きドナウ』や『皇帝円舞曲』で知られるワルツ王ヨハン・シュトラウスⅡ世によるウィンナ・オペレッタの最高峰『こうもり』(音楽監督・指揮・編曲・訳詞/井村誠貴、上演台本・訳詞・演出/伊藤明子、振付/徳山博士)を上演いたします。

オーディションにより選ばれた出演者と生のオーケストラが“オペレッタの王様”と名高い『こうもり』の世界を、底抜けに楽しい物語、美しく心踊る楽しい音楽にのせてお贈りします。地元舞台人が総力を挙げて創り上げるオペレッタ『こうもり』にどうぞご期待ください。



上演台本・訳詞・演出
いとう あきこ
伊藤明子

明治大学文学部演劇学専攻。
在学中より「68/71黒色テント」(現「黒テント」)の活動に参加。黒テントの外部では、栗山昌良、佐藤信、加藤直、各氏の演出助手を務める。

'92年、五島記念文化財団音楽部門新人賞を受賞し渡欧。英国のROH等での研修を経て95年帰国。以降、オペラ、シアターピース、小劇場演劇、ミュージカル等で活動。

新国立劇場研修所、二期会オペラ研修所、桐朋学園大学音楽学部講師。(株)ストーリー・

ウィーンでの流行

1874年、ウィーンではこんな歌が大流行になったそうです。

「永遠の誓いなど泡のようなもの
そんな物はどこにもありはしない
かつて喜びをもたらしてくれた幻影が消えた時
酒を飲んで忘れることでやっと慰められる
どうしようもないことを忘れる人は幸せさ」

これは「オペレッタの王様」ともよばれる『こうもり』的一幕フィナーレの中に出てくる歌です。この作品は、ヨハン・シュトラウスⅡ世が1874年に作曲し、同年アン・デア・ウィーン劇場で初演されました。

この作品が世に出る前年、1873年には当時好景気を呈していたウィーンで万国博覧会が開催されました。オーストリア=ハンガリー帝国がいかにも豊かな国であることを世界に示す絶好の機会とばかり大掛かりな工事が進められ、巨大なパビリオンも建設されました。そして世界各国から最新の技術を駆使した機械や物産が、ウィーンへ送られました。日本政府も初めて公式参加し、日本館が建設されたそうです。しかし、博覧会が開幕してすぐに下町でコレラが流行、数日後には株式の大暴落が起こりました。これによって多くの会社が倒産し、無数の人々が文無しに陥り自殺者も多く出たそうです。半年にわたって開催された万国博覧会の結果は大幅な赤字。それまで好景気に沸いていたウィーン市民の生活がどんなものになったかは容易に想像できるでしょう。

そして翌年『こうもり』という作品がお目見えし、市民に熱狂的に受け入れられたのです。物語の背景は同時代のウィーン近郊の温泉地。観客達は、ワルツを踊り、酒を飲み、大騒ぎをする登場人物たちを身近なものに感じたとでしょう。

この時代のウィーンを最も賑わしたのはワルツの流行で、貴族社会ばかりではなく一般市民までが踊り狂ったそうです。そしてワルツと共にウィーン市民を楽しませたのはオペレッタ。市民たちは歌と芝居を含む軽妙な歌劇を見て、日ごろの憂さを晴らしたのでしょう。

継承ということ

地元名古屋で長く開催され続けてきた名古屋市文化振興事業団の企画公演も今回で第29回!

なんと素晴らしいことでしょう。私自身、過去には幾度となく客席から楽しみ、そして'98年企画公演『フィガロの結婚』では12回の舞台を勤めさせていただきました。

30年近くこの企画公演を開催することはとても大変です。しかしこの企画の趣旨である「地元の舞台人の総力を結集し、新しい可能性を追求する」とした意向は見事に達成され、地元の文化の発展に貢献し広く根付いています。まさに名古屋の文化の歴史になりつつあるのではないのでしょうか。私が幼い頃に教えを受けた師が「戦後焼け野原になってしまった名古屋に草木の芽が出る如く踊りの芽を」と語っていたことが印象に残っています。今回この企画公演に振付として参加させていただくことも、名古屋の文化への貢献となれば幸いです。

現在日本では劇場が主体となり西洋文化の音楽家、声楽家、舞踊家などを育成しプロとしてデビューさせる機関がほとんどありません。私自身多くのジャンルの修得に励んでまいりましたが、各々の分野で数年から数十年の年数を必要とする大変なことです。多くの先人から学び、また後進に継承していく文化の流れは個人個人の力のみで成し得ることは非常に困難です。多くの方々の理解と協力のもと、芸術家が育成され文化が成り立っていくと感じます。この企画公演もたくさんの支援があってこそこの舞台です。我々舞台人はその支援に最大の努力と情熱をもって舞台の成功に携わっていきたいと考えます。

今回の『こうもり』に至ってはプロとして活躍されている方々、そして今後の躍進を期待させる新人の皆様の出演により見所が満載の舞台となることと確信しております。

現代ミュージカルの礎ともなったオペレッタ。そしてその名作『こうもり』...
素敵な舞台の幕が上がることをどうぞご期待ください。



振付
とくやま ひろし
徳山博士

南條流家元・故南條宏、越智貴、各氏に師事。舞踊家として文化庁海外公演事業のベルギー公演をはじめロシア、ブルガリアにおいて数多く公演に出演。

オペラ、ミュージカル作品の振付など多数。
'01年名古屋芸術奨励賞受賞。'05年愛・地球博「エコテキスタイル・ダンス&ファッションショー」演出・振付及び芸術監督を務め、'10年国際芸術祭あいちトリエンナーレにて演出・振付を行う。

舞台VTR映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。



ビデオソフトの企画・制作

有限会社 **イーワン・ビテオ・システム**
TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100



ハードシステム 部門
AV機器販売部門 (家庭用)
映像企画・制作部門
放送関連部門
機器設備レンタル部門

映像メディアの未来を創る
生きた情報を発信

TVS 株式会社 **東海ビデオシステム**
名古屋市中区上筒井二丁目14-15 TEL <052>322-6541 (代表) 6562 (営業部)



■ホール舞台音響設備 販売、設計、施工、保守

AV 株式会社 **イーアンドブイ**
〒464-0846
名古屋千種区城木町二丁目98
TEL 052 (761) 5400
FAX 052 (761) 0909

作曲／ヨハン・シュトラウスⅡ世 台本／リヒャルト・ジュネ、カール・ハフナー
 音楽監督・指揮・編曲・訳詞／井村誠貴 上演台本・訳詞・演出／伊藤明子
 振付／徳山博士 管弦楽／セントラル愛知交響楽団

日 時 2月22日(金)18:30、23日(土)11:00・16:00、24日(日)11:00・16:00
 会 場 青少年文化センター・アートピアホール
 料 金 S席5,000円(1F) A席4,000円(2F) <全指定席> ※事業団友の会会員は1割引
 助 成 芸術文化振興基金
 問い合わせ 名古屋市文化振興事業団 チケットガイド TEL 052-249-9387

◇オペレッタ『こうもり』 関連事業のご案内◇ オペレッタ『こうもり』稽古場見学会

2013年2月の公演を前に、オペレッタ『こうもり』の稽古場では本番に向け、スタッフ・キャストが一丸となって日夜奮戦中！寒さにも負けず、稽古場では熱気が高まっています。この機会に普段見ることのできない、名作オペレッタの稽古場をのぞいてみませんか？

日 時 2月3日(日)14:00
 会 場 演劇練習館(アクテノン)リハーサル室
 定 員 先着30人(無料・1グループ5人まで)
 料 金 無料
 申込方法 下記申込先にお電話にてお申し込みください
 受付開始 友の会会員先行受付 1月7日(月)9:00～ 一般受付 1月9日(水)9:00～
 申込先 名古屋市文化振興事業団 事業案内 TEL 052-249-9387



オペレッタ『こうもり』稽古風景

名古屋市文化振興事業団 企画公演のあゆみ展

名古屋市文化振興事業団が1985年の『三文オペラ』以来、28回に渡り上演し続けてきた「企画公演」。
 この公演は、地元舞台人にとっては、全国的に活躍する演出家、指揮者との作品創造という貴重な体験の場となり、また、ジャンルを越えた相互触発と舞台経験の蓄積が、新たな活動の創造エネルギーを生み出す契機ともなってきました。
 これまでの28作品のポスターと舞台写真により「名古屋市文化振興事業団 企画公演のあゆみ」をご紹介します。

期 間 1月22日(火)～2月3日(日) 10:00～19:00(1月27日、2月3日は17:00まで) ※1月28日は休館日
 会 場 市民ギャラリー矢田 第5展示室
 料 金 無料
 問い合わせ 市民ギャラリー矢田 TEL 052-719-0430
 名古屋市文化振興事業団 事業案内 TEL 052-249-9387

あなたの芸術文化ライフを総合的にサポートします！
 公益財団法人名古屋市文化振興事業団

「友の会」会員大募集！

エンジョイコース (年会費 3,000 円)

- ・事業団主催公演チケットの割引販売！
- ・事業団主催公演指定席チケットの先行販売！
- ・「友の会だより」「なごや文化情報」を毎月お届け！など

クリエイティブコース (年会費 15,000 円)

- ・会員主催の公演チラシを事業団管理運営施設へ配送！
- ・会員主催の公演チラシを友の会会員へ配布！
- ・会員主催の公演で事業団の後援名義が使用できる！など

名古屋市文化振興事業団 事業案内
 TEL 052-249-9387

お詫び

本誌2012年12月号3ページ「随想」において、「授業に日本の音楽や舞が取り入れられることはありません。」との表現がございましたが、2002年の学習指導要領改訂により学校教育にも邦楽が取り入れられ、中学校の音楽の授業で和楽器を教えることが義務付けられています。古典芸能普及に携わる能楽師の立場から現状を認識されたうえ、さらなる古典芸能の普及を願ってのご意見であり、教育現場での取り組みを否定するものではありませんので、補足しお詫び申し上げます。

「なごや文化情報」編集委員

飯塚恵理人 (椋山女学園大学文化情報学部教授)
 小沢優子 (名古屋音楽大学講師)
 倉知外子 (オクダ モダンダンス クラスタ副代表)
 酒井晶代 (愛知淑徳大学メディアプロデュース学部教授)
 田中由紀子 (美術批評/ライター)
 はせひろいち (劇作家・演出家)

当事業団の募集する事業にお申し込みいただいた場合の個人情報は、当該事業に関する事務連絡及び、当事業団の文化事業に関する案内のみに使用させていただきます。

なごや子どものための巡回劇場(下期)

なごや子どものための巡回劇場は、日ごろ生の舞台に接する機会の少ない子どもたちに、テレビ等では味わえない感動を伝えたいと、昭和55年から始まりました。お近くの会場へ、ご家族あるいはお友だち同士で、お気軽にお出かけください。

セントラル愛知交響楽団

ハローオーケストラ

2月2日(土) 東文化小劇場
2月3日(日) 天白文化小劇場
11:00、14:00 (2回公演)
チケット販売中



岩瀬よしのりと鬼剣舞

うたものがたり「スーホの白い馬」

2月24日(日) 守山文化小劇場
3月 3日(日) 中川文化小劇場
3月24日(日) 南文化小劇場
3月27日(水) 千種文化小劇場
10:30、14:00 (2回公演)
チケット販売中



人形劇団夢知遊座

やくそく／ぞく・たべたいなア～

3月 2日(土) 名東文化小劇場
3月 3日(日) 西文化小劇場
3月30日(土) 港文化小劇場
3月31日(日) 緑文化小劇場
11:00、14:00 (2回公演)
チケット1月15日(火)販売開始



狂言共同社

「これが狂言じゃ！」

3月23日(土) 熱田文化小劇場
3月24日(日) 北文化小劇場
11:00、14:00 (2回公演)
チケット1月15日(火)販売開始



料 金 子ども(3歳以上中学生以下) 500円、おとな 800円

主 催 なごや子どものための芸術劇場実行委員会

(名古屋市、公益財団法人名古屋市文化振興事業団、公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団、愛知児童・青少年舞台芸術協会)

後 援 名古屋市教育委員会、名古屋市子ども会連合会

問い合わせ 名古屋市文化振興事業団チケットガイド TEL 052-249-9387

名古屋能楽堂三月定例公演

◆能・狂言と文学 —時代を越える“ことば”と“こころ”—

室町時代前期に大成した能・狂言は、それ以前に成立した古典文学から題材を得て作られました。そして、能・狂言もまた、後代の文学に影響を及ぼしています。今年度の定例公演では、近現代の小説や戯曲の題材となった能・狂言の作品を主に取り上げ、時代を越えて受け継がれてきた日本文学の魅力をお伝えします。3月定例公演は、三島由紀夫の戯曲集「近代能楽集」から能「熊野」を、そして狂言は、「茸」をお贈りします。

能「熊野」 膝行三段の舞 (宝生流) / シテ 衣斐正宜

狂言「茸」 (和泉流) / シテ 今枝郁雄

日 時 3月2日(土) 14:00

発 売 日 1月2日(水)

料 金 <指定席> 4,000円

<自由席> 一般 3,000円 / 学生 2,000円

※友の会会員は1割引(前売のみ)

※当日券は自由席のみ500円増となります

問い合わせ 名古屋能楽堂 TEL 052-231-0088 FAX 052-231-8756



能「熊野」